

# 令和元年度病虫害発生予察特殊報第1号

令和元年 11 月 8 日  
静岡県病虫害防除所長

1 病虫害名 和名：オウトウショウジョウバエ（ハエ目：ショウジョウバエ科）  
学名：*Drosophila suzukii* Matsumura

2 発生物種 ブルーベリー

## 3 発生経過及び状況

令和元年度に、農林水産省の委託事業「我が国の輸出に有利な国際的検疫処理基準の確立、実証委託事業」において、静岡県内でのオウトウショウジョウバエの発生状況を確認するため、県内ブルーベリーほ場で収穫された果実における本種の寄生の有無を調査した。

県中部及び富士地域のブルーベリーほ場（各地域1ほ場）において7～8月に収穫された果実を25℃の恒温器に2週間程度静置したところ、ショウジョウバエ類の成虫が羽化した。羽化成虫について農林水産省名古屋植物防疫所に同定依頼したところ、オウトウショウジョウバエと同定された。

## 4 海外及び国内での発生状況

本種は、東アジア（日本、韓国、中国等）原産であるが、現在はヨーロッパ、アメリカ、カナダ、メキシコ、ブラジル等にも侵入し分布している。

国内では、千葉県のブルーベリー、徳島県のヤマモモ、福島県のブルーベリー、ブドウ及びオウトウ、栃木県のブドウ、神奈川県ブルーベリー等において、本種による被害が確認されている。

## 5 被害

成虫が熟果の果皮に穴を開け果肉内に産卵し、ふ化した幼虫が果実内を食害する。産卵された果実を収穫後に常温で保管すると、果実から幼虫及び成虫が発生し、購入者からのクレームの対象となる。

## 6 特徴

### (1) 形態

卵は乳白色で長径約0.5mmであり、1対の糸状突起を持つ。幼虫は白色で体長約6mmのウジ状である。成虫は暗黄褐色で体長約3mmであり、雄は翅端付近に黒斑を有する(図1)。雌には翅の黒斑がなく(図2)、産卵管の下縁には鋸歯状突起が並ぶ。

### (2) 生態

寄主植物としては、*Prunus* 属（ウメ、スモモ、オウトウ等）、ブルーベリー、カキ、ナシ、イチジク、ブドウ、リンゴ等が知られている。雌成虫はこれらの果実に、1果あたり1～15個の卵を生み付け、生存期間中の産卵数は200～600個である。本種の発育に必要な温度（発育零点）は約9℃で、産卵から羽化までの期間は25℃では約10日である。成虫は10℃以上で活動し、年間の発生回数は10～13回である。冬期は

成虫の状態、落葉や小石の隙間で越冬する。

## 7 防除対策

- (1) ブルーベリーのオウトウショウジョウバエに登録のある薬剤を、果実の収穫開始前に散布し、本種の寄生を防ぐ。薬剤選択にあたっては、「静岡県農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準」(<http://www.s-boujo.jp>)を参照する。
- (2) 地表の落下果実は、本種の発生源となるため、土中に埋没またはビニール袋に入れて処分する。
- (3) 収穫した果実は常温で保管せず、冷蔵または冷凍保管する。
- (4) 本種と疑わしい個体及び被害を見つけた場合は、病害虫防除所に連絡する。



図1 オウトウショウジョウバエの雄成虫



図2 オウトウショウジョウバエの雌成虫

問い合わせ先： 静岡県病害虫防除所 TEL. 0538-36-1543